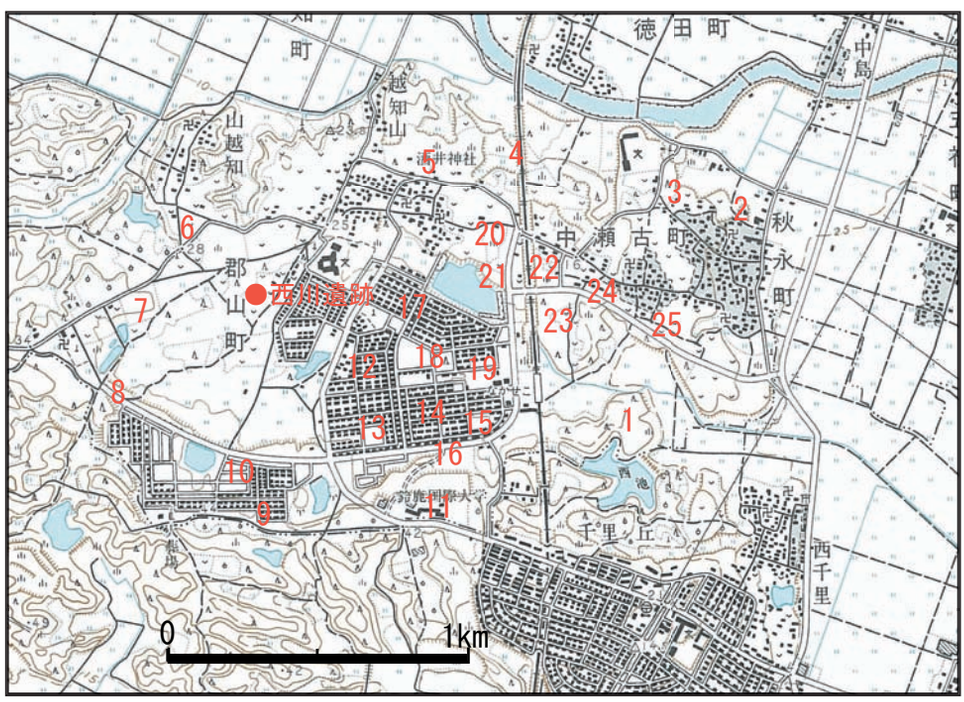
現地説明会資料
平成１８年７月２９日（土）午後２時

鈴鹿市郡山町

西川遺跡第２次発掘調査



西川遺跡の位置と周辺の遺跡（1/25,000）

１．茶臼山古墳群　2. アカゴ塚古墳　3. アカゴ塚２号墳　4. 畑遺跡　5. 三芝遺跡（郡衙推定地）　6. 山越知南遺跡
７．郡山大野古墳群　8. 西高山１号墳　9. 西高山２・３号墳　10. 西高山Ｄ遺跡　11. 寺谷古墳群
12. 西高山Ａ遺跡　13. 追谷遺跡　14. 西高山Ａ遺跡　15. 西高山Ｂ遺跡　16. 徳居 31 ～ 34 号窯跡　17. 末野Ｃ遺跡
18. 末野Ａ遺跡　19. 末野Ｂ遺跡　20. 塚腰遺跡　21. 松山遺跡　22. 経塚古墳　23. 松山古墳群
24. 中瀬古南遺跡　25. 大門遺跡

所 在 地　鈴鹿市郡山町字野口地内
調査目的　宅地造成事業に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成 18 年 6 月 5 日から 8 月 12 日（予定）
調査面積　約２，２００㎡
調査主体　鈴鹿市（考古博物館）
鈴鹿市国分町２２４
TEL059-374-1994　FAX374-0986
E-mail:kokohakubutsukan@city.suzuka.mie.jp
URL　http://www.edu.city.suzuka.mei.jp/museum/

はじめに

西川遺跡は中ノ川右岸の河岸段丘上の奥まった地点に立地しています。段丘上は東から入り込んだ河川により浸食されて , 浅い樹枝状の谷が複雑に入り組み，その間の半島状の高まりに集落が点在しています。この段丘上には数多くの遺跡が分布しています。昭和 50 年から 57 年にかけて行なわれた夕川ニュータウン（現 : 太陽の街）の造成に先立つ発掘調査では西高山（にしたかやま）１～３号墳，末野（すえの）古墳，徳居（とくすえ）３１・32 号窯，西高山 A ～ D 遺跡，末野 A ～ C 遺跡，松山遺跡，塚腰遺跡，中瀬古南遺跡，大門遺跡，西川遺跡など多くの遺跡が発掘調査されました。特に，古墳時代後期～奈良時代にかけての竪穴住居（たてあなじゅうきょ）は８０棟，掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）は１２０棟あまりに及びます。末野 B 遺跡では，廂（ひさし）構造や目隠塀（めかくしべい）を持つ建物を中心として計画的に配置された掘立柱建物群は，豪族クラスの有力者の住居か役所の出先機関ではないかと考えられています。また , 郡山町は名のごとく古代奄芸（あんげ）郡の役所（郡家（ぐうけ）・郡衙（ぐんが））が置かれた地で, 現在の酒井神社の周辺がその候補地とされています。

１次調査（昭和 57 年）の概要

太陽の街の造成に伴い発掘調査されました。調査地は今回の調査地から南東約 200 m の地点です。約 1,200 ㎡が調査され , その結果縄文時代中期末の竪穴住居 2 棟が検出され , 縄文土器や石鏃などの石器も出土しました。また，古墳時代後期から奈良時代にかけての竪穴住居 19 棟，掘立柱建物 13 棟が検出されました。出土遺物としては須恵器（すえき）が圧倒的に多く，須恵器生産地のためか焼けゆがんだ製品も多く見られました。また，鍛冶（かじ）に使われたフイゴの羽口（はぐち）や鉄滓（てつさい）も出土しています。

２次調査の成果

１）近世の瓦窯

調査区のある字野口は通称「カワラヤマ」と呼ばれ，現在も周辺を歩くと瓦の破片が見られます。今回の調査では,「カワラヤマ」と呼ばれる由来となったと考えられる瓦窯が見つかりました。

調査区東側から２基見つかり（達磨窯（だるまがま）１・２），地上部分は大きく失われているものの，その形態的特徴から「達磨窯」であることがわかりました。規模は２基ともにおおよそ南北 4.5 m 東西 2.5 m で，窯体には廃瓦が使用されていました。焚口と考えられる箇所も見つかっています。達磨窯２の焼成室には, 廃瓦を使ってつくった 4 本の畦が確認できました。窯周辺からは軒丸瓦・桟瓦（さんがわら）等が出土しています。

まだ調査はしていませんが，調査区中央にも南北 4 m 東西 2.5 m のよく似た遺構があり，同様の窯であると思われます。これらの窯は江戸時代後期ごろのものと考えられます。

２）掘立柱建物群（ほったてばしらたてもの）

掘立柱建物が 6 棟以上見つかっています。見つかった建物は周囲だけに柱をめぐらす側柱（がわばしら）建物（掘立柱建物１～４・６），建物内部（側柱の各交点）にも柱がある総柱（そうばしら）建物（掘立柱建物５）の２種類があります。側柱建物のなかには，１面だけに廂（ひさし）を持つものがあります（掘立柱建物４）。総柱建物の建物内部の柱は床を支えるための柱で，倉庫として使われたと考えられます。これらの建物はおおよそ奈良時代に属するものと考えられます。

３）土坑（どこう）群

調査区西側を中心に規模１～３ m の不整形な土坑が密集して見つかっています。何のために掘られたものかはわかりませんが，互いを避けるように掘られていることから，ほぼ同じ時期の遺構であると考えられます。底部にほぼ完形の山茶碗（やまぢゃわん）が置かれる土坑があることから，鎌倉時代を中心とした遺構であると考えられ

ます。それ以外には奈良時代の土器や硯(すずり)が出土する土坑もあります。

４）竪穴住居

調査区西側で５棟見つかりました。この周辺は１段高くなっており，調査区の他の箇所と比べて遺構の残りがよかったといえるため，一段低い場所には，さらに竪穴住居が存在した可能性もあります。建物の規模は一辺が５～5.5ｍほどの方形で，床面の周囲には溝がめぐらされています。同じ箇所で複数棟重複していて，建替えが行なわれたことが分かります。出土した土器からは飛鳥～奈良時代の住居であると考えられます。

５）円面硯(えんめんけん)

大型品と小型品が出土しました。大型品は硯面(けんめん)(墨(すみ)を磨る面)径 14cm，外堤径 19cm で，硯面は滑らかです。小型品は硯面径７cm・外堤径９cm で，硯面には自然釉がかかっています。通常，硯を窯で焼く場合は逆位に置かれ，硯面に灰がかからないようにします。こちらは何らかの理由で灰がかかってしまったため，失敗作として捨てられたとも考えられます。

まとめ

今回見つかった掘立柱建物の配置には役所の建物のような規則性は見られませんが，廂構造を持つものがあり，やや大きめの倉庫を伴っています。さらに，円面硯も出土しています。これらのことから奄芸郡家に勤めた役人，あるいは徳居窯跡群(とくすえかまあと)の須恵器生産に携わった有力者の住居と見られます。

また，瓦を生産した達磨窯の跡が見つかっています。時代は近世と新しいものですが，郷土の産業史を考える上で貴重な資料となると思われます。

用語説明

廂（ひさし）

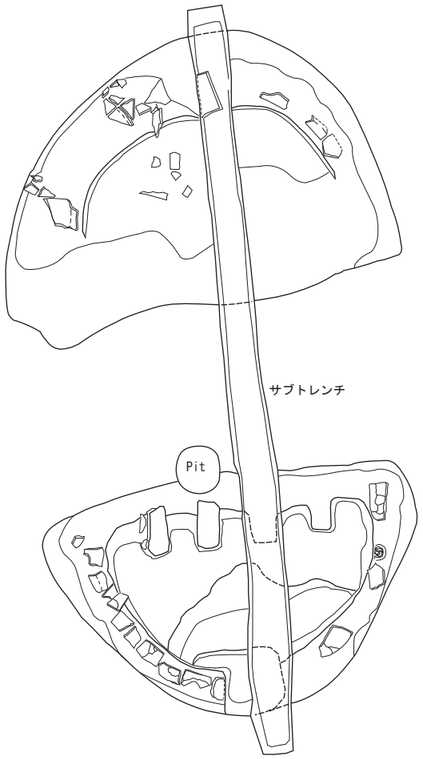
建物の平面積を増やすために身舎（母屋）の外側に柱を立てて屋根を伸ばした構造。今で言う広縁に近い。片面（一面）廂から四面廂まであり，建物の格式をあらわします。

達磨窯（だるまがま）

中央に焼成室（瓦を焼く場所）を置き，両脇に燃焼室・焚き口を設けた地上式の小型窯。焼成室に畦（火格子・ロストル・畝）と持ち，中央につくられた峠によって燃焼室からの火焔を下から上へ上昇させる構造を持ちます。達磨窯は主に燻瓦（いぶしがわら）を焼くために中世末から用いられ，昭和 40 年代まではよく見られました。現存する窯もあります。窯を横から見た形が，達磨大師が座禅を組む姿に似ていることからこう呼ばれるようになりました。

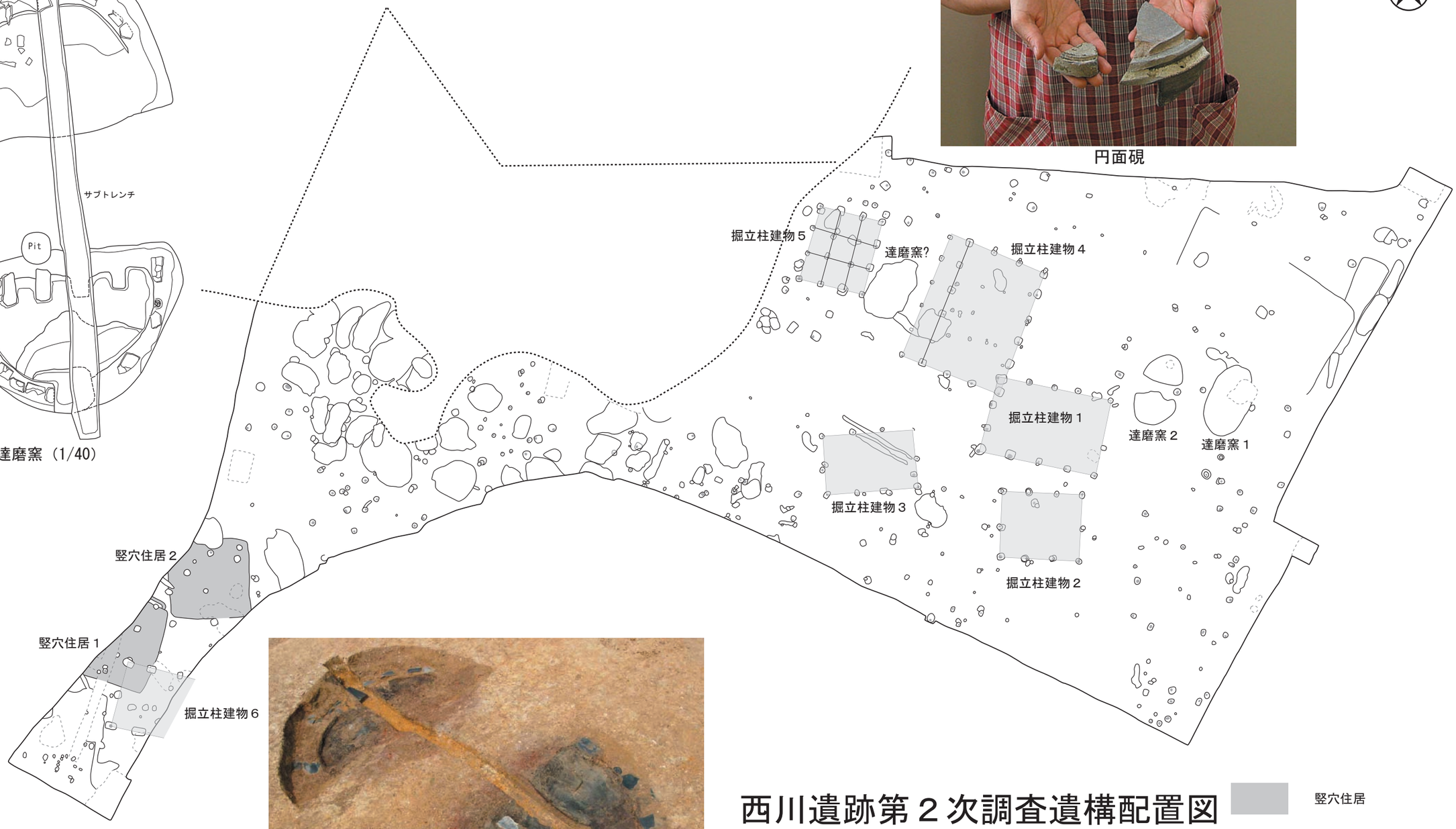
桟瓦（さんがわら）

本瓦葺に使われる丸瓦・平瓦を簡略化し，１枚に組みあわせた瓦。より安価で軽量，便利であることから広く普及しました。17 世紀後半頃に出現したと考えられています。



達磨窯（1/40）

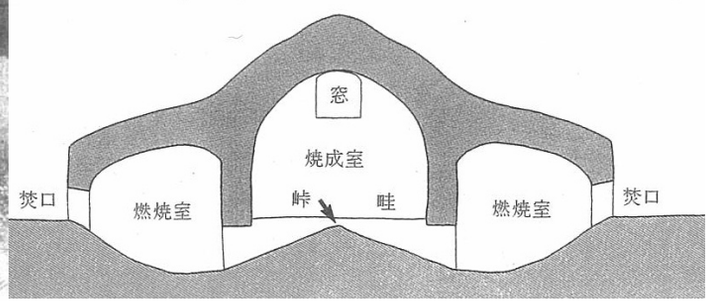
円面硯



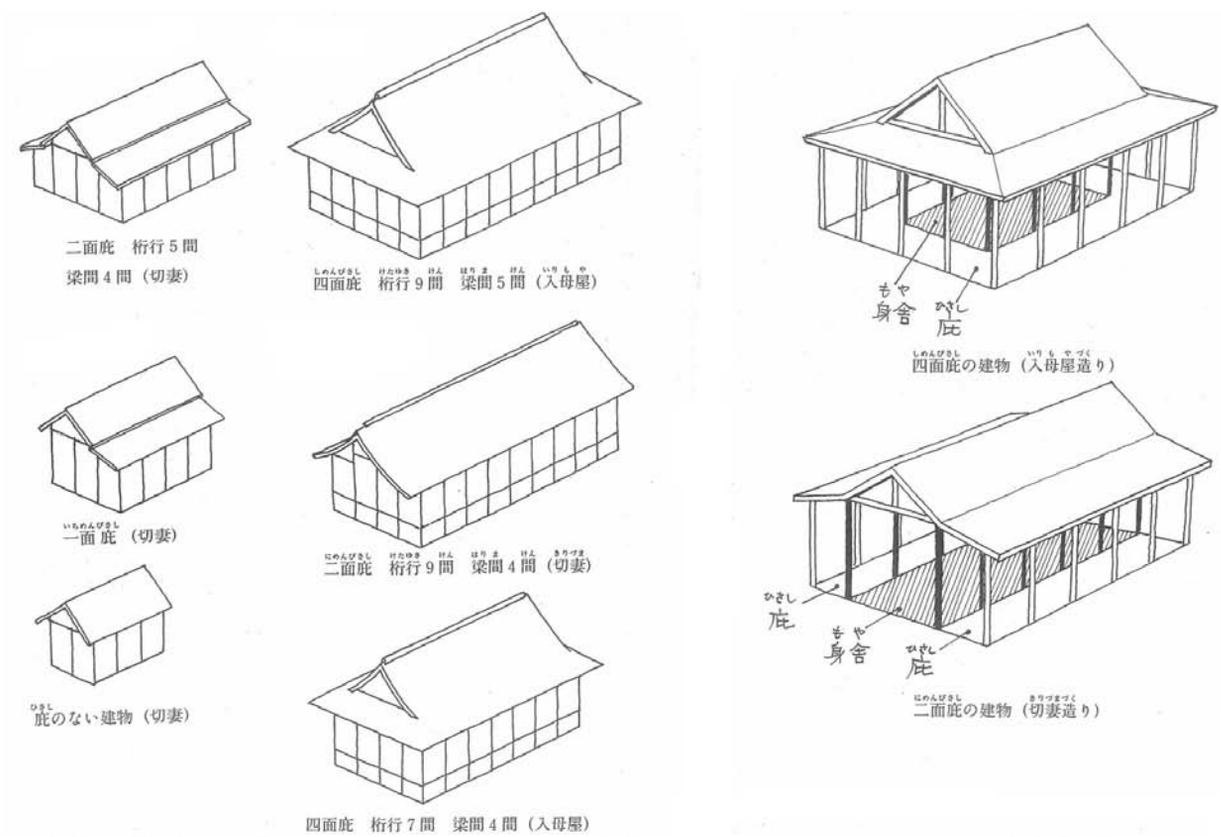
西川遺跡第２次調査遺構配置図

達磨窯（東から）

小林栄子瓦窯（桑名市多度町）



藤原学『達磨窯の研究』学生社から



建物の構造　『日本人はどのように建造物をつくってきたか７　平城京』草思社から

鈴鹿市考古博物館の催し物

企画展「ぼくのわたしのたからもの」

鈴鹿市内の小・中・高等学校には，あまり知られていませんが多くの考古遺物が所蔵されています。その多くは、ほとんど一般に公開されていません。

今回、それらの考古遺物を鈴鹿市考古博物館に一堂に集めて展示します。

会期：平成１８年７月１６日（日）～９月１０日（日）（休館日：月曜日・第３火曜日・祝翌日）

開館時間：9：00 ～ 17：00（入館は 16：30 まで）

観覧料：一般・学生２００円 / 小・中学生１００円（７月２３・３０日と８月中の日曜日は無料）

「夏休み子ども体験博物館」

楽しく学べる体験講座や展示ガイドツアーなどを行います。詳細は鈴鹿市考古博物館ホームページを御覧ください。

期間：平成１８年７月２１日（金）～８月３１日（木）（休館日：月曜日・第３火曜日・祝翌日）

開館時間：9：00 ～ 17：00（入館は 16：30 まで）

費用：材料費等が必要な講座があります。